# あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

## 2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

### 弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

| 区分 | 一般 | 大学生・高校生（学生証のご提示が必要です） |
|---|---|---|
| 個人 | 300円 | 200円 |
| 団体（有料20名以上） | 250円 | 150円 |

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

●愛知県清須市朝日貝塚1番地
●TEL／052-409-1467
●開館時間／9：30～17：00
●駐車場／15台
●休館日／月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

### 戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムより清洲城まで徒歩約10分

入館料
【大人】300円
【小人】150円（小中学生）※幼児無料

●愛知県清須市朝日城屋敷1－1
●TEL／052-409-7330
●開館時間／9：00～16：30
●休館日／月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット
2施設で計600円を 500円 発券より半年間有効

### 古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料
【一般】200円
※中学生以下無料

●名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
●TEL／052-739-0520
●開館時間／9：00～17：00
●休館日／月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を 400円 発券より半年間有効

大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

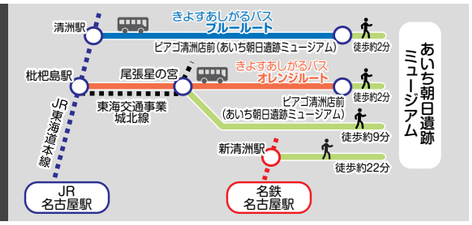
共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

## あいち朝日遺跡ミュージアム

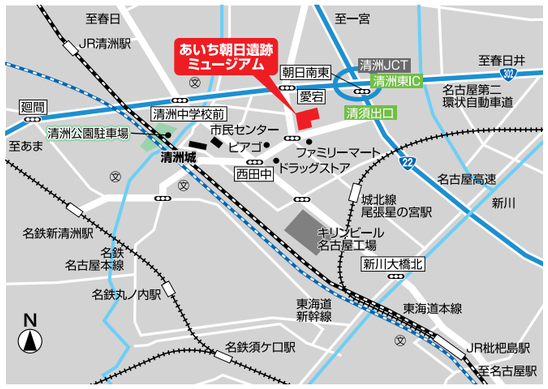
■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

**公共交通機関**




**クルマ**

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。




新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館時のマスク着用および、検温と手指消毒をお願いします。また状況に応じて、館内の一部閉鎖および、関連イベントを中止する場合があります。詳しくは公式WEBページにてご確認ください。



朝日遺跡だより vol.7 令和4年12月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム
〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

# 朝日遺跡だより

2022年12月 vol.7

振り返りレポート／企画展「北陸の弥生文化 ―八日市地方遺跡と東海―」
ミニ展示／「青谷弥生人がやって来た!」
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介
古代体験プログラムのお知らせ
9月～11月のできごと
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイル
弥生ムラづくりプロジェクトレポート
アカとクロがレポートするミュージアムの見所

企画展写真

# 企画展 振り返りレポート

## 企画展 北陸の弥生文化 ―八日市地方遺跡と東海―

期間　2022年10月22日（土）～ 12月18日（日）
場所　あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

石川県小松市の八日市地方遺跡は、北陸地方を代表する弥生時代の集落です。地元で産出する石材を用いた勾玉・管玉、農具や容器類をはじめとする木製品等、出土品の製作技術や完成度は極めて高く、小松市が所蔵する1,020点は国の重要文化財に指定されています。また、朝日遺跡をはじめとする東海地方の弥生文化と関係する出土品も多く、両地域の間には密接な交流があったことがうかがえます。

本展の見所は、重要文化財八日市地方遺跡出土品41点をはじめとする同遺跡の優品が一堂に会したことでしょう。人面付土器、シカと狩人が描かれた壺、精緻な加工が施された木製匙など、一つ一つが弥生時代を代表する重要資料です。公益財団法人石川県埋蔵文化財センターからは、北陸新幹線建設に伴う発掘調査の出土品が出品されました。なかでも柄付鉄製ヤリガンナは、弥生研究者を驚嘆させた注目の資料です。さらに、金沢市埋蔵文化財センターからは、石川県指定文化財、西念・南新保遺跡の木製品4点が出品されました。他にも東海地方との関係を示す資料を中心に展示し、北陸地方の特徴的な弥生文化と東海地方の弥生文化との関係について紹介しました。

企画展ポスター

さて、この企画展では、新しい試みとして、展示品の３Ｄ画像を作成し、どの角度からでも鑑賞できるようにしました（人面付土器、動物形土製品等5点）。ＱＲコードを読み込むことで閲覧サイトに接続し、来館者の手元のスマートフォン等で自由にご覧いただけるようにしました（公開は会期中のみ）。

また、本ミュージアムとしては初めて、企画展の図録を制作しました。主要な展示品の写真と解説を御覧いただけます。本企画展のために撮影した写真も多く掲載しています。企画展終了後もミュージアムショップで販売しておりますので、ぜひお買い求めください。

最後に、本展の開催にあたり、御協力いただきました所蔵機関をはじめ、関係者、関係機関に厚くお礼申し上げます。

（原田 幹）

人面付土器・八日市地方遺跡（小松市埋蔵文化財センター蔵）

柄付鉄製ヤリガンナ：
八日市地方遺跡（石川県埋蔵文化財センター）の３Ｄ画像

木製品：西念・南新保遺跡（石川県指定文化財、金沢市埋蔵文化財センター）

木製匙：
八日市地方遺跡（重要文化財、小松市埋蔵文化財センター）

## ミニ展示 青谷弥生人がやって来た！

期間　2022年9月27日（火）～ 10月16日（日）
場所　あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

鳥取県の国史跡青谷上寺地遺跡から出土した弥生人の顔が復元されました。この復顔像は「青谷上寺朗」と命名され、鳥取県が企画した「青谷弥生人」ミュージアムキャラバンとして、全国の博物館を巡ることになりました。そして、東海地方では、あいち朝日遺跡ミュージアムで最初にお披露目されることになったのです。

展示期間中には、多くの方が上寺朗に会うために会場を訪れるとともに、青谷上寺地遺跡の出土品や現在進められている史跡整備にも興味をもっていただきました。

また、展示最終日には、講座「日本海を望む弥生の村と人々」を開催し、盛況を博しました。（P5参照）

青谷弥生人の復顔像

シリーズ
## ミュージアム収蔵品ファイル No.6

このコーナーでは、あいち朝日遺跡ミュージアムの収蔵品から、選りすぐりの資料を紹介していきます。

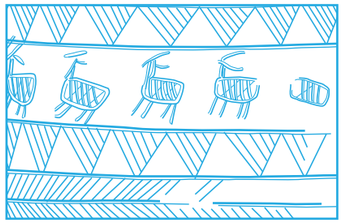
# 筒形土製品

筒形土製品

筒形土製品は、縦長の筒のような形をした容器です。底は丸あるいは尖ったような形で、自立できません。口縁は斜めに切られています。写真の筒形土製品は、斜行線文（しゃこうせんもん）、鋸歯文（きょしもん）等の文様帯で装飾され、文様の間に横並びにシカの線刻が配置されています。シカの絵が描かれた筒形土製品は、春の企画展で紹介した一色青海遺跡の出土例（シカはベンガラで描かれています）があります。また、秋の企画展「北陸の弥生文化」では、小松市八日市地方遺跡のコップ形木製品を展示しました。木と土、素材の違いはありますが、形は筒形土製品とよく似ており、地域を越えた関係がうかがえます。

筒形土製品は、数が少なく、鋸歯文などの文様で装飾されたり、シカが描かれたりすることから、何か特別な用途に用いられた容器と考えられます。どのような場で使われたものなのでしょうか。

（原田 幹）


筒形土製品に描かれた文様とシカの絵

# 弥生ムラづくりプロジェクト レポート

**体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで弥生体験を実践しています。**

## 収穫体験 ▌2022年 10月22日（土）

体験水田に実った古代米の刈取りを行いました。

以前の活動で製作した石包丁を使用して、穂の部分のみを刈取る「穂摘み」で収穫を行いました。

弥生時代の稲刈り体験に、一同興味津々でした。

## 脱穀体験 ▌2022年 11月19日（土）

10月に収穫した稲穂から、籾を取り出す作業「脱穀」を実施しました。

臼に入れた稲穂をひたすら竪杵でつくのは大変な作業ですが、出来上がった玄米と籾殻を見ると、子どもたちも喜んでいました。

朝日遺跡マスコットキャラクター
「アカ」 「クロ」

# アカとクロがレポートする ミュージアムの見所（屋外編その6）

学芸員に聞こう！

## Q1 あいち朝日遺跡ミュージアムは2020年にオープンしたんだよね。だけど、屋外には大きな木も生えているね。

この場所は元々、愛知県清洲貝殻山貝塚資料館という1975年に開館した博物館の敷地でした。その資料館の建物を改修したのが、今の史跡貝殻山貝塚交流館です。屋外の木には1975年の貝殻山貝塚資料館開館に合わせて植えたものも多く残っているので、今では大木に成長しているんです。

シイの木

## Q2 どんな種類の木が生えているのかな？

道路に面した所にはサクラが並んでいます。だから春のミュージアムにはお花見に訪れるお客様もいらっしゃいます。ただし、公園などでよく見かけるソメイヨシノよりも、ヤマザクラやサトザクラが多いです。ソメイヨシノは根を大きく伸ばす木なので、たくさん生えていると地下の遺跡を壊してしまう恐れがあるのです。

秋になるとドングリがなる木もあります。シイやマテバシイなどですね。カキも1本だけありますが、残念ながら渋柿です。

冬に小さな赤い実をたくさん付けているのはクロガネモチ。実は、この木は人の手で植えたものではありません。鳥に食べられて運ばれた種から芽吹き、大きくなったようです。

ヤブツバキ(手前)とソメイヨシノの大木

ヤブツバキ製竪杵の復元品(右)

シイの実

## Q3 弥生時代の人たちの生活を支えていた木もあるのかな？

朝日遺跡からはヤブツバキ製の竪杵が出土しています。冬に環濠の近くで赤い花を咲かせている木ですね。固く緻密ですり減りにくい材質なので、竪杵にはうってつけの木材です。

ドングリは縄文時代から食料に利用されており、弥生時代の人々も引き続き食べていたと思われます。シイの実はアクが少ないので、フライパンで煎るか、新聞紙にくるんでレンジで温め、皮がはぜてきたら食べられます。

ただし、ドングリの中には虫がいることも多いので、ミュージアムの展示室の中には持ち込まないでくださいね。虫がいる実は水に浮くので、食べる時は加熱前に水洗いすれば見分けられます。

田中 恵美（あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員）

## 連載（シリーズ7）　ミュージアムスタッフのこぼれ話

運営・事業担当の齋藤です。皆様、「博物館」ってどんなイメージですか？　「難しそう」「暗い」「静か」など、少し堅いイメージがあるかもしれません。学芸員は、「博物館」のもつ「堅い」イメージをできるだけ柔らげられるように、展示に工夫をしています。その一部を今回はご紹介します。

展示室に入ると、資料のほかに「解説パネル」が設置されています。当館では、大きな解説はパネルにして壁に設置しますが、そのパネルを学芸員と指定管理者である私たちで作っています。

学芸員は、その展示のプロなので、展示物に関する専門用語がスラスラと出てきます。しかし、用語に慣れていない来館者には分かりづらいこともあります。それでは意味がない！と、私たちで気づいた箇所を話し合い、できるだけ分かりが良いように解説文を整えていきます。

パネルの数や、書きぶりなど、各展示でぜひご覧になってください。きっと担当学芸員のこだわりが見えてきます。（これも、展示の楽しみ方の一つではないかと思います。）

今、皆様の目の前に並んでいる資料は、今日に至るまでにたくさんの人々が「すごい！」と感じ、その価値を証明してきたものたちです。そして解説パネルは担当学芸員が「ここがこうなっているからすごいのよ！」と感動した部分について書いてある、みどころ（担当学芸員の「推しポイント」）ということになります。

さて、「弥生時代ってよくわからないんだけど」という方もいらっしゃるかと思います。私も同じです。このミュージアムの展示をとおして弥生時代について学んでいます。資料の価値を、みどころを、ぜひ皆様と分かち合いたいです。

（指定管理者 齋藤）

解説パネル（大）

解説パネル（小）

## ショップグッズ紹介

【 銅鏡キーホルダー 】

今回紹介するミュージアムグッズは、銅鏡キーホルダーです。こちらのキーホルダーの銅鏡デザインは三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）ですが、当ミュージアムでも古墳時代前期の銅鏡と破鏡（割れた鏡）が基本展示室2にて展示されています。キーホルダーの模様とは違いますが、ぜひ展示室の銅鏡も合わせてご覧ください。

銅鏡キーホルダー
¥650（税込）

展示室内の銅鏡

## 古代体験プログラムのお知らせ

**土・日・祝 開催**　会場：本館・体験学習室

※2023年1月7日(土)から3月26日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回)
※当日ミュージアム本館受付にてお申込みください。（事前予約はできません）

### 2023年 1月限定メニュー　アンギン編み体験
教材費 50円　各回先着 10人
■時間／15:00～（45分）

作例

### 2023年 2月限定メニュー　土人形づくり
教材費 600円　各回先着 10人
■時間／15:00～（60分）
※完成した作品は当ミュージアムで焼成し、3月12日（日）まで展示します。その後は、ミュージアム本館受付で返却します。

作例

### 2023年 3月限定メニュー　金ピカ馬具を作ってみよう
教材費 700円　各回先着 10人
■時間／15:00～（30分）
※馬型土偶は本プログラムに含みません。

作例





## イベント

### 「拓本缶バッジづくり」

●日時：2022年10月9日（日）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：清洲城信長まつりの関連事業として、「拓本缶バッジづくり」を開催いたしました。本物の土器片の模様を紙に写し取って作る、本格的なデザインの缶バッジ製作をお客様も楽しまれていました。

### 「収穫祭」

●日時：2022年11月19日（土）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：秋イベント「収穫祭」を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、多くのお客様にご来館いただきました。弥生時代・江戸時代・明治大正までの3種類の脱穀作業を体験する「脱穀体験」や、史跡や館内を舞台にしたクイズラリーの「朝日遺跡めぐり」、普段は公開できないバックヤードの収蔵品をご案内する「ギャラリー＆バックヤードトーク」など様々なイベントを行いました。中でも、本物の土器片を接合する「リアル・土器パズル」は、「もっと体験したい」と多くのお客様が楽しまれていました。

## 体験講座

### 「石包丁づくり」

●講師：原田幹（本ミュージアム学芸員）
●日時：2022年9月17日（土）午前10時から午前10時45分まで・午後1時から午後1時45分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・体験学習室
●内容：イネなどの穀物の穂をつみとるための石器”石包丁”。石と砥石を水で湿らせて、ひたすら研いでいく作業ですが、みなさん黙々と研いでいき、オリジナルの石包丁を製作しました。

## 講演会

### 「日本海を望む弥生の村と人々」

●講師：濱田竜彦
（鳥取県地域づくり推進部文化財局とっとり弥生の王国推進課課長補佐）
●日時：2022年10月16日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：国史跡青谷上寺地遺跡から発見された弥生時代後期の人骨群について、最新の研究成果を紹介しつつ、青谷上寺地遺跡の集落像や集った人々について紹介されました。

### 「日本海側における東西弥生文化の結節点」

●講師：下濱貴子（小松市埋蔵文化財センター所長）
●日時：2022年11月6日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：特産品である碧玉製玉作りを盛んに行い、広域な交易を担った八日市地方遺跡。朝日遺跡とも比較しつつ、弥生時代中期の世界について紹介されました。

## 講座ヒストリーカフェ

### 「シカをめぐるお話」

●講師：田中恵美（本ミュージアム学芸員）
●日時：2022年9月10日（土）午後1時30分から午後2時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館・研修室
●内容：土器や銅鐸に描かれた弥生時代のシカは、現代人の目にはつたない表現に見えますが、実はシカの特徴がよくとらえられています。天然記念物である「奈良のシカ」の写真を交えつつ、展示資料をより詳しく紹介しました。

### 企画展「あいちの発掘調査2022」開催のお知らせ

会期:2023年1月21日（土）～3月12日（日）

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見も相次いでいます。

今回の企画展は、県内各地の発掘調査による新たな出土品や調査成果を紹介するとともに、「尾張と東三河の首長墓（しゅちょうぼ）」をテーマに、国指定史跡断夫山（だんぷさん）古墳(名古屋市)と国指定史跡馬越長火塚（まごしながひづか）古墳群(豊橋市)の出土品を公開します。

また、発掘調査の成果を身近に感じていただくため、学識者を招いたミニシンポジウムや、調査担当者による報告会などを開催し、県内の考古学の最新情報を紹介します。

この機会に、皆様の御来館をお待ちしています。

企画展ポスター